

好きです！奄美農業

編集・発行 大島支庁農林水産部農政普及課

経営普及係・技術普及係 奄美市名瀬永田町17-3 (0997)57-7274

瀬戸内町駐在 瀬戸内町古仁屋船津36 (0997)72-0184

喜界町駐在 喜界町赤連2901-14 (0997)65-3019

<http://www.pref.kagoshima.jp/aa02/chiiki/oshima/sangyo/nougyou/index.html>

大島地区青年農業者会議を開催

11月26日、龍郷町りゅうがく館で大島地区農業青年クラブ連絡協議会主催の青年農業者会議がクラブ員、指導農業士、女性農業経営士、関係機関等約60名出席のもと開催されました。

2名のクラブ員が発表を行い、先輩農業者や他のクラブ員から多くの助言・質疑が挙がるなど、活発な意見交換が行われました。

また、大島地区指導農業士会会長の講評では、困難を乗り越える意欲や経営拡大への姿勢が評価されました。

青年農業者の今後ますますの活躍が期待される会議となりました。



4Hクラブの歌 斉唱の様子

○意見発表

山越織江氏（奄美市）

品目：パッションフルーツ、かぼちゃ

「自分らしさを生かした農業経営」と題して就農後3年間の農業体験に基づく意見発表を行いました。農園のファンづくりや労働力確保に向けた取り組みを紹介し、デザインの知識やSNSを武器とした前衛的な経営戦略と、出身地の北海道と奄美の産地交流に向けた夢について話をされました。



意見発表（山越氏）

○事例発表

田中基次氏（龍郷町）

品目：ハーブ、6次産業

「農業×福祉 農福連携」と題して農福連携と6次産業化の取り組みについて事例発表を行いました。障がい者の活躍の場の増加、地域の農業労働力の確保等、事業のメリットについて紹介し、今後の経営拡大に向けた活動展開について話をされました。



事例発表（田中氏）

奄美大島・喜界島農業の動き

奄美大島・喜界島の農業の出来事を毎月県ホームページ上で紹介しています。右のQRコードから閲覧できます。
詳細は、大島支庁農政普及課までお問い合わせください。



令和6年7月掲載

- これからの女性農業経営士組織の活動について意見交換（6月26日）
- 奄美プラムの生産出荷体制について次年度へ向けた課題を共有！（7月16日）
- 奄美大島・喜界島マンゴー品評会が2年ぶりに開催！（7月24日）
- マンゴープレゼント企画でPR強化！



女性農業経営士組織活動でのワークショップ（6月26日）

令和6年8月掲載

- 瀬戸内町で畜産における暑熱対策研修会を実施！（7月29日）
- 喜界町スプレーグク産地維持・増収に向けた検討会を開催（8月5日）
- 大島本島地区さとうきび生産振興大会が5年ぶりに開催！（8月22日）

令和6年9月掲載

- 園芸若手女性農業者が畜産について学ぶ（9月6日）
- 次年度に向けたパッションフルーツ栽培講習会開催（9月12日）



スマート農業推進研修会での農業用ドローンの説明（10月4日）

令和6年10月掲載

- 喜界町ごま生産振興協議会がKJ法で産地振興の方向性を検討（9月20日）
- マンゴー・パッションフルーツの来期作増収に向けた取組を検討（10月3日）
- スマート農業推進研修会で柑橘管理作業の未来像を学ぶ！（10月4日）
- 奄美市たんかん塾、第2回講座を開催！（10月10日）
- 公設市場で地産地消の推進を語り合う（10月15日）
- 喜界町上嘉鉄地区の農地集約検討会（10月15日）
- 奄美柑橘クラブが研究・普及との連携強化！（10月18日）
- 喜界町でさとうきびハーベスタ新規オペレーター試乗会を開催（10月19日）←P3関連記事

令和6年11月掲載

- のべ100名を超える新規就農者等が「農業基礎講座」に参加！（7月下旬～10月下旬）
- 奄美群島内のたんかん産地相互の交流を深める！（11月7～8日）
- 「今後のハーベスタオペレーターを確保していくために」関係者で熱く協議！（11月18日）←P3関連記事
- JAあまみ果樹部会が大規模な現地検討会を開催！（11月19日）
- 喜界町のさとうきびのスマート農業への取組（11月20日）

さとうきびハーベスタオペレーターの確保・育成に向けた取組

奄美大島・喜界島のさとうきび栽培にとってハーベスタ（以下：HV）は欠かせない存在となっています。今後もHVによる収穫作業を継続していくために、大島支庁農政普及課やHV組織、関係機関が連携して取り組んでいる活動について紹介します。

1 HV新規オペレーター確保に向けた取り組み

奄美大島・喜界島のHV組織が継続的に運営していくためには、後継者の確保が必要です。

奄美大島では、関係機関で話し合いを行い、「今後のHVオペレーターを確保していくために」アイデアを出し合いました。

喜界島では、昨年までの話し合いで出たアイデアの中から、「新規オペレーター候補のリスト化・候補者を対象としたHV試乗会の開催」に取り組みました。HV試乗会で実際に作業した参加者からは、丁寧な指導でわかりやすく、研修に満足したとの意見もあり、次年度以降も試乗会を継続することになりました。

今後も、HV組織や関係機関と連携し、話し合いやアイデアの実現に取り組み、HVの新規オペレーターの確保につなげていきます。



▲HV試乗会のようす



◀オペレーター確保検討会のようす

2 HV収穫組織の経営安定対策

収穫作業を受託するHV組織は、機械の修理代や燃料代の高騰など社会的環境の変化がある中、今後も継続的・安定的に営農を継続していくために、収穫作業のコストに基づいた経営管理をしていく必要があります。

そこで今年度、HV連絡協議会や関係機関と連携して、各HV組織ごとの収穫作業のコストを分析しました。

その結果、組織間で収穫量1トン当たりのコストに最大約3000円の差があり、収穫するほ場の単収等が大きく影響していることがわかりました。

今後も、HV組織の安定した運営が継続できるための取り組みを続けていきます。



▲コスト分析のようす

来年度以降も生産者の皆さん・関係機関と連携し、継続して対策に取り組んでいきます！

ストップ 赤土流出！ ～ 耕作地のできる対策に努めよう～



ハーベスタ、路面の清掃



緑肥作物の栽培



ソルゴー等の被覆

収穫後のハーベスタのキャタピラの土落とし。路面の土を圃場に戻す。

休耕期にソルゴー等を栽培し、耕土流出を防ぐ。土づくりの効果もあり。

畑の裸地部にソルゴーやススキ等を敷き、耕土流出を抑える。

赤土は粒子が小さく、雨風等で流出しやすい性質があります。赤土が畑の外に流れないように、しっかりと対策をとり、大切な耕土と奄美の自然環境、観光資源を守りましょう。

女性農業者組織「komorebi（こもれび）」の紹介

komorebi ～amami women's network～は、奄美大島の農業女子7名で令和4年11月に設立した新しい組織です。令和6年12月末現在、奄美大島5名、喜界島2名の計7名で、島内外で活躍する女性農業者との交流や小学校への食育出前授業などに楽しく取り組んでいます。また、インスタグラムなどのSNSを活用して、地域農業の魅力や食の大切さについて情報発信を行っています。



@KOMOREBI.AMAMI

学び・交流・発信



SNS活用や農福連携についてなど、様々な学習会を企画、実施！



島外で活躍する女性農業者や地元消費者との交流

小学校での食育出前授業

令和6年度は「女性の労働環境整備・活躍強化事業」の支援を受けて活動しました。

宇検村の時元和子さんが農山漁村女性活動功労者を受賞

11月20日、令和6年度農山漁村女性活動功労者の表彰式が、鹿児島市のカクイックス交流センター（鹿児島県民交流センター）で開催され、宇検村の時元和子さんが受賞されました。

時元さんは、宇検村初の女性農業委員として、また、「平田たんかん生産組合」の設立当初メンバーとして、さらに宇検村生活研究グループのリーダーとして、長年にわたり、農山漁村で活躍する女性の先駆者・牽引役を担ってこられました。

おめでとうございます 🌸

